

平成27年 第13回教育委員会会議録

1 日 時

平成27年10月14日(水)

開会 10時00分

閉会 11時10分

2 場 所

教育委員会室

3 出席した委員

横山真紀委員長職務代理者、金田清委員、橋正徹委員、中村健一委員、眞鍋知子委員、木下公司教育長

4 説明のため出席した職員

金戸清外志教育次長、竹中功教育次長、齊田正活教育次長、表純一教育次長兼教員指導力向上推進室長、平島敏彦教育次長兼教育振興推進室長、脇田明義庶務課長、宮崎栄治教職員課長、小浦寛学校指導課長、篠原恵美子生涯学習課長、浅田隆文化財課長、森山喜博スポーツ健康課長

5 委員長選挙の結果

委員6名による投票の結果、金田清委員を委員長に選任することに決定

6 議案件名及び採決の結果

議案第35号 石川県教育委員会事務局等処務規程及び石川県立学校処務規程の一部改正について (原案可決)
議案第36号 平成27年度石川県優秀教職員の決定について (原案可決)
議案第37号 教職員の人事について (原案可決)

7 報告案件

第1号 平成28年度石川県公立学校教員採用候補者等の選考結果について
第2号 第70回国民体育大会における本県選手団の成績について
第3号 平成27年度いしかわマスター教員の決定について

8 審議の概要

・開会宣告

金田委員長が開会を告げる。

・会議の公開・非公開の決定

議案第36号、議案第37号及び報告第3号は、人事に関する案件のため、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第13条第6項に基づき非公開とすることを、

全会一致で決定。

・質疑要旨

議案第35号 石川県立教育委員会事務局処務規程及び石川県立学校処務規程の一部改正
について

(脇田庶務課長説明)

資料1頁をご覧ください。

1の「提案理由」であります。特別養子縁組を成立させるための監護期間について、法律上の親子関係にある子を対象とした育児休業と同様の扱いとする「特別養子縁組休暇」制度を創設したことから、これに関連する手続き等を定める必要があり、2の「改正規程」にある訓令の一部を4の「改正内容」のとおり改正するものであります。

改正案は、次頁から8頁のとおりでございます。

なお、これまでも例はございませんし、現在も要望等はお聞きしておりませんが、条例の施行に併せてあらかじめ手続等を定めるものでございますので、よろしく願いいたします。

以上で説明を終わります。

【質疑】

質疑なし。

(金田委員長)

採決を行う。

(全委員)

異議なし。

報告第1号 平成28年度石川県公立学校教員採用候補者等の選考結果について

(宮崎教職員課長説明)

資料11頁をご覧ください。

教諭及び養護教諭につきましては、受験者総数1,433人から採用候補者として320人を選考いたしました。

この結果、競争倍率は、昨年度より0.3ポイント増加し、4.5倍となりました。括弧書きとなっておりますのは、正規教員の勤務経験を有する受験者を対象とした選考区分Ⅳの結果であり、受験者51人の中から14人を選考しております。

また、採用候補者を受験区分別に見ますと、小学校が152人、中学校及び高等学校が

158人、養護教諭が10人となっております。

なお、受験区分及び教科別における採用候補者の内訳や倍率は、次の12頁のとおりでございます。

また、今年度18年ぶりに実施した理療科教諭等の選考に関しましては、受験者2人から1人を採用候補者として選考いたしました。

今回の選考においても、教科の専門性や指導力・実践力のある優れた人材が得られたものと考えておりますが、さらに資質能力を磨き、指導力の向上を図るため、研修の一層の充実に努めてまいりたいと考えております。

その第一歩いたしまして、採用内定者が4月から自信と熱意を持って教師生活をスタートできるよう12月から3月にかけて、採用前研修、7講座を実施することとしております。

次に、現職の学校栄養職員を対象といたしました栄養教諭の特別選考につきましては、受験者12人から4人を採用候補者として選考いたしました。

なお、選考結果につきましては、いずれも去る10月9日午後3時、採用候補者の受験番号を公表するとともに、全受験者あてに結果を発送したところであります。

以上でございます。

【質疑】

(橋正委員)

いしかわ師範塾を受講されていた方の人数でも割合でもいいのですが、どのくらい合格者がいたのか、どのくらい受験者がいたのか教えてください。

それともう一つ、大学を卒業されて直ぐの方は合格者の中でどのくらいいるのでしょうか。

(宮崎教職員課長)

いしかわ師範塾の受講者につきましては、手元に数字を持っておりません。

昨年は第1期生ということで注目もされているので調べたのですが、今回は申し訳ございませんが、そういう数字を持っておりません。

それから、いわゆる新卒、大学4年生、大学院2年生の新卒の候補者につきましては、320人中144人合格でありまして、全体の45.0%であります。

(橋正委員)

新卒の合格者は、近年ではとても多い数字ですよね。

(金田委員長)

現役が頑張っているということですね。

(橋正委員)

石川の教育をこれから担っていく先生の卵ですので、学校の受け入れの体制もまた、一段と気を引き締めてと言いますか、整えて、良い先生に育つように留意していただきたいと思います。

(中村委員)

橋正委員の意見と同じなんです、現役で入られる方は若い方たちなので、その方が先生になって、先生という肩書きをいただいて職に入るということは、極めて怖い部分もあって、立派な社会人としての、人間としての人生経験も少なく、いろんなことが分からないわけですね。それをどう我々がサポート出来るかということ。

学力を教えるという形の他に人間性をどう磨いていくかということが、大変重要ではないかなと思っておりますので、その方面もよろしく願います。

(金田委員長)

小学校はピークが来たということ、正規の先生が増えたということですかね。

(宮崎教職員課長)

おかげさまで、平成23年度から300人を超える採用をさせていただきまして、かなり正規の割合というのは増えております。

(金田委員長)

小学校の倍率、なんとか3倍をクリアしましたけれど、これが5倍ぐらいあればね。

(木下教育長)

本当は5倍くらいあればいいんですが、

(金田委員長)

受験生にとっては倍率は低い方が良いんですが、やはり採用する側にとってはもう少し高い方がね。

(木下教育長)

もう少し受験者を増やすような努力が必要かなというふうに感じております。また次期に向けて考えていきたいと思っています。

(金田委員長)

また是非、お願いしたいですね。

先生という優秀な人材を確保していくそういった体制をとっていかないとね。

中村委員も言われましたけど、人材こそが将来への投資だと思いますので、倍率を上げていくような形のものを作っていただきたい。

それから、栄養教諭はまだ任用替えでやっているわけで、実際に資格を持っている人達の試験という形はとっていないのですね。

(宮崎教職員課長)

今、学校栄養職員として勤めている方々の中に栄養教諭の免許を取る人が、少しずつですが毎年おりますので、当面、その方々への任用替え試験で対応していきたいと考えております。栄養教諭としての新規採用は、今のところ考えておりません。

(金田委員長)

任用替えで当分は確保していくということですね。

ということは若い人達は栄養士として試験を受けて、後に任用替えというプロセスになるということですね。

早く、若い栄養教諭の受験の確保を願いたいですね。

報告第2号 第70回国民体育大会における本県選手団の成績について
(森山スポーツ健康課長説明)

資料13頁をご覧ください。

9月26日から中心会期の競技が開始されておりますが、第70回紀の国わかやま国体におきまして、本県選手団は各競技において良く健闘しまして、1の「男女総合成績」いわゆる「天皇杯」における都道府県別成績で、獲得得点が887点、順位が29位となりました。

目標としておりました千点獲得はなりませんでしたが、4年連続で20位台内を確保することが出来ました。

3の「本県選手入賞数」につきましては、団体で17、個人で50となり、4の「本県の優勝」では、団体で相撲少年男子が2年連続10回目の優勝を果たし、準優勝した成年と併せ2年連続の競技別総合優勝に輝いたほか、ハンドボール成年女子の北國銀行が3連覇を達成しました。

個人では水泳少年男子の飛び込みで中学生の中選手が、高校生を退けまして初優勝を果たしたほか、相撲少年男子の城山選手とボートの少年女子で角谷選手も初優勝に輝いております。

また、水泳成年男子の競泳で小堀選手が4年ぶり3度目の優勝、カヌー成年女子の笹生選手が10連覇を達成し5競技7種目で優勝者が出ております。

今大会で20位台を確保できたのも「チーム石川」を合い言葉に競技に取り組まれた選手や関係の皆さんの努力の賜であり、心から敬意を表するものでありますが、今後、11月に予定しております国体40競技団体を対象としました国体の総括が中心となります競技力向上推進会議に向けまして、県体協会や競技団体等と大会のふり返りや強化策の検討を行い競技力向上に努めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

【質疑】

(金田委員長)

1,000点には届きませんでしたね。

(中村委員)

前年、天皇杯16位で今年29位とものすごく下がっていて、20位台確保どころかものすごく落ちたということなので、もう少し頑張ってもらわないとね。

(森山スポーツ健康課長)

得点、順位ともに落ち込んだわけですが、落ち込んだ中で特に少年男子の入賞数は一昨年、昨年の20から今大会25と伸びていることもあります。こういった点もありますので、どういったことでこの結果に繋がったのかを検証しまして、他の種別、成年男子・女子、少年女子にも広めていきたいと思っています。

(金田委員長)

少年というのは、高校生主体ですか。

(森山スポーツ健康課長)

そうですが、中学3年生が出られる競技も20競技ございます。

(中村委員)

悪くなったところを補強していかなければならないので、悪い要因を明確に確認してどうするかというところをね。そこを何とかよろしくお願いします。

(森山スポーツ健康課長)

こういった分析を毎年のように行っていますが、基本は、まずは指導者に問題がないかどうかということ、

それから成年と少年、少年はやはり中学生、高校生と生徒ということと、成年の皆さんは仕事を持って競技に取り組んでおられると、そういう環境の違いもありますので、大きく少年・成年という区分で分析をしながらやっていきたいと思っています。

(橋正委員)

東京オリンピックが決まってから、各県それに向けていろんなエンジンがかかっているのかなと思っているんですが、そうではないのですかね。

そういう中であって、本県も選手を育成する視点で監督やコーチ、練習会場の問題とか、その他にもいろんな財政的な面などオリンピックに向けて、どんなものがあるのかとそういうことも大事なのかなあという気もしますね。

(木下教育長)

ある意味端的に言えば、年ごとの数字を見ていただければお分かりになるだろうと思うのですね。

一つは、短期的に見て油断がないかどうか。しっかりと勝ちを意識した勝負というものをどの程度、その年度、その年度考えているかということもあるのではないかというふうに思いますし、今ほど森山課長が言ったように、様々な育成面での課題があるかどうかということの中長期的に考えていく必要があるというふうに思います。

ある意味、勝ったことに理由はないかも知れませんが、負けるのには理由があるということでありまして、我々も薄々いろんなことは分かっていますので、そこはしっかりと競技団体と相談して短期的な対策を、そして意識の問題、そして中長期的な対応をという形で検討し、協議していきたいと思っています。

(金田委員長)

今言われた指導者という面におきましても配置等も含めて、また学校の要望も聞きながら、市町の教育委員会の要望も聞きながらそういう情報を集めていただきたいということと、もう一つは、今教育長も言われましたようにいろんな問題を含んでいると思うのですが、各県ともやはり良い選手を獲得、発掘しようとしていますから、石川県もそういうところでガードを固めていかないと県外へ流出してしまうとこういう積年の問題ですけれど、早急に対応しないと全国の草刈り場になってしまう。

(中村委員)

やっぱり得意なもので、例えば市立工の相撲、そこには良い先生がいて優秀な生徒が集まるということで、得意な分野を積極的に取りに行く種目を明確にして、全国レベルの先生がいるかないという判断基準もありますので、そこに良い先生を置くと絶対良い生徒も集まりますからね。

(木下教育長)

資料の3を見ていただければ、26年の長崎と今年の何が違うかということ、団体での入賞数ですね。団体の入賞と言うのは、これはベスト8に入らないと点数が付かないと、石川は体力的には30何位という中でベスト8に団体として入っていくのは相当難しい努力のいる話です。

そんな中で鏑を削って、どんなふうにして8位内に食い込んでいくかということで、去年は成功したし、今年は今一步と言いますか24、25年度並みというような形になっているということなんだろうと思います。

従いまして、47都道府県ある中で8位に食い込むこと、これは非常に石川県の体力としては難しいというような部分もあると思うのですが、ここをしっかりと対応していかないと点数を取っていけないということになるのかなあというようなことで、団体のその辺のところをしっかりと強化し、勝負にこだわった対応をとっていただくと、そういうことを思っています。

(中村委員)

こういう面では北國銀行さん、企業が強いスポーツチームを持っているとね。

PFUさんも今良い選手が入りましたしね。

そういう面で見ると都会と比べると企業力が断然違うので、団体はハンディーキャップはありますよね。

そうすると我々は、せめて個人と高校生で頑張るしかないんですね。

昔は成年で相撲が強かったですよね。

(森山スポーツ健康課長)

成年男子相撲は、今年、準優勝です。

(中村委員)

やはり相撲は良いですね。

(木下教育長)

ですから、競り合っているいろんな競技の中で、8位の中にいかにしてしがみついて入り込んでいくかというそのところがね。我々も求めるのはなかなか難しい部分もあるので、そこはやっぱりしっかりと点を取ってくれと、またそれに対する支援をしっかりしていけないと思っています。

(横山委員)

余談ですが、先日、東京での会議の中で「石川県はサッカー強いし、北陸は野球も頑張っているし、新幹線開業の影響も後押ししているよね。」とキラキラしたイメージをもたれていて、スポーツ県というふうに見ている方々もいらして、このような地道な成績を見られていないからかも知れませんが、イメージはものすごく高いので訴求力がありますので是非頑張ってもらって、去年、16位の時にみんなで喜んで拍手していた記憶がありますので、次の71回目を期待したいと思います。

(金田委員長)

29位という数字の中には、多くの課題や将来の展望が含まれていると思いますので、また、学校現場、あるいは体協と連携を密にしながら来年を目指して頑張っていたきたいと思います。

(金田委員長)

以降の審議については、非公開となるため、傍聴人の退席を促す。

議案第36号 平成27年度石川県優秀教職員の決定について（非公開）

宮崎教職員課長が説明し、採決の結果、全会一致で原案のとおり可決された。

報告第3号 平成27年度いしかわマスター教員の決定について（非公開）

宮崎教職員課長が説明した。

(金田委員長)

人事担当教育次長以外の教育次長と、庶務課長及び教職員課長以外の課長の退出を促す。

議案第37号 教職員の人事異動について（非公開）

宮崎教職員課長が説明し、採決の結果、全会一致で原案のとおり可決された。

・閉会宣言

金田委員長が、閉会を告げる。